

「子ども文化」における指導方法と評価
－取り組む態度を評価するための効果的な指導方法－

1 研究の背景

新学習指導要領では、新しい保育所指針等への対応や職業人としての意識をより一層高めることができるよう、「子どもの発達と保育」と「子ども文化」の内容を整理統合し、再編成された。これらの科目においては、基礎的・基本的な知識・技術の習得を土台として、地域の保育園やコミュニティ施設へ赴き、地域と協働し多様な他者と関わりながら現実の課題に積極的に取り組む経験を通して、保育の視点から持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することを目指している。

このことから本研究では、科目「子ども文化」（保育実践）において、手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居制作への取組を通して、パフォーマンス課題を段階的に取り入れ、主体的に学びに向かう力の育成を目指す。そして、生徒自身が学習成果を評価できる評価基準を明確化し、主体的・対話的な学びができるよう指導方法の改善を図る。

昨年度の研究を通して浮かび上がった課題を踏まえ、今年度の研究に改善を加えた。本年度の研究で大きく変更した点は、発表の場である「校外学習」を複数回設定したことである。これにより振り返りを生かした実践ができるようになった。

	昨年度の課題	今年度の取組（指導計画へ反映）
1	絵本を制作する上で、幼い頃の記憶に加えて、授業で学んだ知識（子どもへの理解など）も盛り込むとよかった。	校外学習を分散させることで、絵本制作前に子どもに触れる機会を設定し、そこで学んだことを絵本制作に生かせるようにした。
2	よくない点を自覚した生徒は多かったが、改善案について考えを深められていない生徒が多かった。	校外学習を2回設定することで、振り返りを生かした実践ができるように配慮した。
3	振り返り、改善、練習に使える時間が不足していた。年間を通して実習計画を入れていくとよい。	リハーサルの時間を計画した。
4	生徒自身の自覚が不足していた。	新たな制作課題（おもちゃ作り）を取り入れた。イベントのチラシを作成した。

2 単元の概要、パフォーマンス課題の内容

(1) 単元の概要

- ア 科目名 子ども文化（保育実践）
- イ 実施時期 1学期～2学期
- ウ 対象 子ども文化（保育実践）選択者3学年18名
- エ 使用教材 子ども文化（実教出版）、学習プリント、タブレット端末、プロジェクタ
- オ 単元名 第1章 子どもの表現活動と保育

(2) パフォーマンス課題の内容

- ア 絵本の読み聞かせ
- イ 手遊び
- ウ 校外学習

(3) 指導計画

時間	学習内容	評価		評価規準及び評価方法
		観点	記録	
3節 言語表現活動				
【ねらい】子どもの表現活動の意義と重要性について考える				
1	・子どもの頃に読んだ絵本、好きだった絵本を思い出し、グループで話し合い、まとめる。	態		ワークシート
2	1 言語表現活動の学習	知	○	・言語表現活動の意義と重要性を理解し、適切に記述している。 定期考査 ワークシート
3	・言語表現活動の意義と重要性			
4	2 校外学習の準備			
5	①児童センター訪問	思	○	・施設の設備や子どもの様子について気付いたことを分かりやすく表現している。 ワークシート ・子育て世帯が参加したいと思う内容について書かれている。 ・子どもの発達段階に合わせたおもちゃを考えて作ることができる。
6	・施設や子どもの観察 ②訪問のまとめ ・イベントに必要なものの準備 ・案内チラシ ・おもちゃ制作			
7	3 校外学習			
8	4 校外学習振り返り	態	○	
9	5 紙芝居の制作			・よかった点、課題・改善点に気づき、自分なりに解決策について考え、分かりやすく表現している。 紙芝居で伝えたいテーマを子どもの特徴を踏まえて自分なりに考え、分かりやすく表現している。 ワークシート 観察 ロイロノート
10	①伝えたいテーマを考える	思		
11	②下書き作成 ・下書きが完成したらロイロノートに提出する。 ③清書	態	○	
12	6 手遊び・絵本の読み聞かせ			・アドバイスを受け、試行錯誤しながら、言語表現方法について協働的に学ぼうとしている。 ワークシート ・発表において、自分の考えを分かりやすく伝えることができている。
13	①発表・評価	思	○	
14	・発表（聞く人は評価シートに記入する） ・発表を聞いてアドバイスをし合う。			

	<p>②振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表動画、自己評価と他者評価を踏まえて発表内容の問題点を見だし、改善する。 <p>③発表・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善点を中心に発表（聞いている人は評価シートに記入する） <p>④振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートをまとめる。 	思		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表を振り返り、改善点を見つけ、友達の意見を聞き、自分の考えに取り入れている。 観察 ・自分の発表を振り返り、改善点を見つけ、自分なりに改善策を考え、分かりやすく表現している。
18	7	校外学習の準備		<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯が参加したいと思う内容について書かれている。
19				
20	8	校外学習		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に合わせたおもちゃを考えて作ることができる。
21	9	校外学習の振り返り		<ul style="list-style-type: none"> ・よかった点、課題・改善点に気付き、自分なりに解決策について考え分かりやすく表現している。

(4) パフォーマンス課題の内容とねらい

ア 絵本の読み聞かせ

子どもの発達段階に合わせた絵本を、声の出し方や表情などに気を使いながら読み、実際の子どもの反応を見ることで子どもの言語活動についての理解を深める。

イ 手遊び

1グループにつき2つの手遊びを習得し、子どもたちと一緒に活動することで、子どもの音楽・身体表現活動についての理解を深める。

ウ 校外学習

伝えたいテーマを子どもに分かりやすく伝える技術を身に付けることをねらいとし「伝える工夫」を、ワークシートやロイロノートを利用して評価する。

3 単元の評価規準・評価基準

(1) 評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
子どもの表現活動の意義と重要性を理解し、子どものさまざまな表現活動を促す技術を身に付けている。	子どものさまざまな表現活動について課題を発見し、その解決方法を検討し、創意工夫し表現している。	子どもの表現活動と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価基準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>A 十分満足できる 子どもの表現活動の意義と重要性について根拠を踏まえて十分理解し、適切に記述している。</p>	<p>A 十分満足できる 子どもの発達の特徴を理解し、抑揚、速さ、間の取り方、声の大きさについて根拠を踏まえて分かりやすく表現している。</p>	<p>A 十分満足できる 体験を通して感じたことを含めて言語表現方法について自らの考えを適切に伝えたり、他者の考えを聞いて自分の考えを整理改善し、まとめようとしている。</p>
<p>B おおむね満足できる 子どもの表現活動の意義と重要性についておおむね理解し、適切に記述している。</p>	<p>B おおむね満足できる 子どもの発達の特徴を理解し、抑揚、速さ、間の取り方、声の大きさについて分かりやすく表現している。</p>	<p>B おおむね満足できる 体験を振り返り、言語表現方法について協働的に学び合おうとしている。</p>
<p>C 努力を要すると判断した生徒への指導の手だて 教科書やプリントを活用して再度確認をさせる。</p>	<p>C 努力を要すると判断した生徒への指導の手だて 子どもの発達の特徴について教科書やプリントを再度確認させる。</p>	<p>C 努力を要すると判断した生徒への指導の手だて 体験活動を振り返り、自分の意見と他者の意見を整理させ、自分の考えを他者に伝えさせる。</p>

4 成果と課題

本研究で「子ども文化」（保育実践）科目における主体的・対話的な学びができるよう指導方法の改善に取り組んだ。パフォーマンス課題として取り上げた(1)絵本の読み聞かせ (2)手遊び(3)校外学習について、それぞれの成果と課題を記載する。

(1) 絵本の読み聞かせ

ア 成果

子どもの発達段階に合わせた本を選び、発達段階や言語活動についての理解を深めた。子どもの前で実際に読み聞かせることで、適切な声の大きさや話し方、間の取り方や表現方法等について考えることができた。

イ 課題

抑揚や間の取り方、発声など練習の段階で意識していたものを、本番で意識できていた生徒は少なかった。活動の合間に活動についての振り返りを呼びかければ、後半は修正できた可能性があった。子どもたちの中には、絵本に興味を示す子も示さない子もいた。読み聞かせる生徒は、興味を示さない子のことが気になって、読むことに集中できていないようだった。子どもの表情を見ながら読み聞かせることの難しさについては理解していたが、次の段階ではどうするかという目標につなげられた生徒は少なかった。

(2) 手遊び

ア 成果

発達段階に合わせた手の動かし方について、実践的に理解した。振り返りシートにも、この子にはまだ早かった、この子にはちょうどよい、この子には簡単すぎて退屈だった等、子どもの発達段階に合っているかどうかについて観察した結果の記載が多くあった。

グループごとに習得した手遊びを披露した際、他のグループは、発表や子どもたちの様子を見て、間の取り方や速度などについて考察したことを振り返りシートに記述することができた。

イ 課題

声の大きさや、子どもを手遊びに誘う声かけについて、積極的に修正できた生徒は少なかった。発達段階より高度な手遊びを披露され活動できなくなってしまった子もいた。その子への対応がその場では取れなかったことについて反省している振り返りシートもあった。

(3) 校外学習

ア 成果

さまざまな年齢の子どもたちと接し、発達段階に合わせた対応を実践的に学んだ。実際の子どもの反応を見て、目の前の子に合わせた対応を考え、改善策を考えることができた。

イ 課題

失敗したと感じたことについて、原因はなぜか、どういう状態が望ましいかを記述した上で解決策を挙げられた生徒は少なく、直感的にこうすればよいと思った、とのみ書かれていたシートが多かった。課題について、理想の状態を挙げた上で、なぜできなかったのかといった原因について深く考える時間を設ける必要がある。

校外学習ではどのような成果を得たいかについて、事前に認識の共有ができていなかった。そのため、生徒によって積極性や振り返りの軸が異なっていた。



発表の様子



振り返りの様子

全体の課題として、

- ・子どもの発達段階についての理解不足
- ・具体的な改善策について考察する力の育成
- ・施設側が期待する高校生との関わりを踏まえた実習計画

が浮かび上がった。今回は保育系の進路を希望する生徒がほとんどいない講座であったこともあり、子どものイメージは自分の家族以外にもてない生徒が多かった。日常生活においても子どもと接する機会をほとんどもたず、校外実習が始まった当初は子ども（＝知らない人）との時間をどう過ごすかに戸惑っている生徒が多く見られた。「保育実践」は応用科目であり、保育系の進路を希望する生徒のみの履修となる。基礎科目「保育基礎」を学んだ生徒がより実践的な内容を学習するために、パフォーマンス課題の取組を通して、子どもと関わりつつ学習することになる。これらの取組により、子どもの健やかな発達を促すためのよりよい保育について考え、課題を解決する力の育成へとつなげることができると考える。